行政は政策効果をどのように捉え、どのように測定し、それをどのように意思決定につなげることができるか

2026年10月22日　EBPM事例研究会

田中隆一（東京大学）

政策効果：政策効果をどのように把握すべきか？

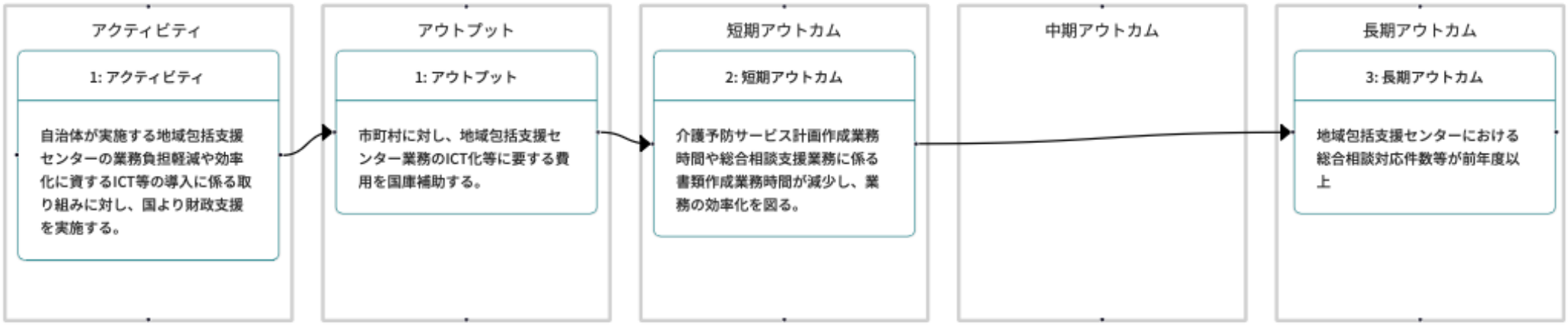
ロジックモデル的整理

- 目標は何か（アウトカム）
- 目標達成のために何を行うのか（アウトプット）
- 手段は何か（アクティヴィティ）
- 財源（インプット）

因果関係としての政策効果

- 統計的因果推論の手法（RCT、差の差推定量、マッチング法）
- リサーチデザイン（評価方法、必要なデータの事前把握）

ロジックモデルの例：厚生労働省「地域包括支援センター等におけるICT等導入支援事業」（2023年度行政事業レビューより）



番号	活動目標／成果目標の種別	期間	成果目標の種類	活動目標／成果目標	活動指標／成果指標	当初見込み／目標値
1	アウトプット	--	--	市町村に対し、地域包括支援センター業務のICT化等に要する費用を国庫補助する。	国庫補助市町村数	600
2	アウトカム	短期	定量的	介護予防サービス計画作成業務時間や総合相談支援業務に係る書類作成業務時間が減少し、業務の効率化を図る。	当該事業によるICT等導入センター数	1,800
3	アウトカム	長期	定性的	地域包括支援センターにおける総合相談対応件数等が前年度以上	総合相談対応件数	--

成果の測定：行政は何を成果として測定すべきか？

アウトプットとアウトカムを分け、既存データを活用

把握可能なもの：基幹統計、一般統計、行政業務データ、追加調査

ICT導入支援事業

- 行政業務データ：助成記録、実施計画書・実績報告書等、書類作成業務時間
- 測定項目：参画自治体数、総合相談対応件数、業務効率化の実感（事務負担を5段階で回答）
- 比較対象のデータ：既存の悉皆調査の活用を検討（不足分は同様の設問による事後調査で補う）

測定のタイミング：単年度の進捗と、中長期の成果を分けて測る

例：特定健診の受診率向上（令和6年度に検証）

アクティビティ：基礎自治体による個別面談、個別通知、ポスター作成などの受診勧奨の取組
短期の成果：特定健診の受診率
長期の目的：生活習慣病の発症・重症化の予防

受診率の変化だけでは長期の健康改善は判断できない（成果が現れる時期とデータ取得時期を事前に設定）

（単年度PDCA的）政策改善には、アクティビティ・アウトプット・短期アウトカムからチェック

出典：厚生労働省 令和6年度 第1回検証会 資料3 pp.4–5、参考資料5 pp.1–4

効果把握のためのリサーチデザイン

ICT導入支援のリサーチデザイン案（令和6年度資料）

案①：参画自治体と未参画自治体の導入前後を比較（マッチング＋差の差分析を検討
案②：参画自治体の前後比較

課題：未参画自治体のデータ取得（既存の悉皆調査の活用）

事前に比較対象とデータを確保し、検証可能性を高めておくことが重要（特に長期的アウトカムの把握において）

出典：厚生労働省 令和6年度 第1回検証会 資料3 pp.20–24

まとめ

政策効果をどのように捉えるか？

- ロジックモデルから測定項目を整理
- 事前のリサーチデザイン

どのように測定するか？

- 把握可能な（既存）データを活用
- 単年度の進捗と、中長期の成果を分けて測る

どのように意思決定につなげることができるか？

- アクティビティ・アウトプット・短期アウトカムのチェックでPDCA的政策改善
- 未来のEBPMのための長期的アウトカム把握